

南山大学 図書館報

No. 7 1990.10

“図書館”から“学術情報センター”へ

たか はし こういち
高橋 弘一
(経営学部助教授)

エレクトロニクスや材料科学、そしてライフ・サイエンスなどの急速な進歩を捉えて、1980年代は“新しい技術革新の時代”と称された。そして、今、その延長線上の90年代に。この間、ICから超LSIへとエレクトロニクスは急速な進歩を遂げ、それが、機械や通信技術の発達、さらには情報処理技術の進歩と結びついて、社会全体を大きく変え始めた。

“情報革命”はその最たる一面であり、図書館にも、その波はひたひたと押し寄せている。以下、図書館がその質的变化を迫られつつある情報環境の変化について、二、三、指摘してみよう。

第一は、新しい情報メディア、CD-ROM(コンパクトディスクを使った読み出し専用メモリー)の登場である。CD-ROMによれば、レーザー読み取り装置とパソコンを介して、そこに盛り込まれている大量の情報の中から必要な情報を容易に探し出すことができるし、引き出した情報をさらに加工処理するというように、書籍やマイクロフィッシュなど従来の情報メディアとはまったく異なった利用の仕方が可能となる。筆者も、昨年8月、「大蔵省が上場企業1,800社の有価証券報告書をCD-ROM化して発売する」という新聞報道に接した時には大いに驚いたものであるが、こうした新しい情報メディアの登場は、図書館に対し、その情報に関する認識の転換を迫っているように思われる。

第二は、各種データベースの整備である。わが国でも、目下、その整備が急がれているが、世界にはさまざまなデータベースが存在する。

“情報を制する者、ビジネスを制す”といった生臭い発想は別として、情報への迅速かつ的確なアクセスが研究促進の決め手となることは多くの説明を必要としない。わが図書館は、学術情報に関わるデータベースを中心に、すでにその利用とサービスの提供段階に入ったが今後ますます増大するであろう各種データベースを有効に活用するためには、絶えずノウ・ハウを拡大し、蓄積する努力が欠かせない。

第三は、研究面における映像情報の重要性増大の兆しである。大統領の処刑を頂点とするルーマニア市民革命の報道にその一例を求めることができるように、テレビを通じた生々しい報道や、各国の主要テレビ局が作成した映像番組の中には、研究の素材、あるいはその手懸かりとして活用できそうな情報が、最近多く見受けられる。研究レベルでも、映像情報の重要性は今後高まるものと予見されるが、それらは、将来とも、大学図書館と無縁であり続けるであろうか。

“南山大学学術情報センター”の構築とも表現しうる高度情報化社会への対応。筆者は、将来多くの人々が、「改称しなければ実態にそぐわない」と言い出すような、そんな図書館の変身を期待している。

労働関係の資料の宝庫に巡り会って

ふじ わら みち お
藤 原 道 夫
(経営学部助教授)

鶴舞にある勤労会館の労働資料室のことを南山大学に赴任当時の私に教えてくれたのは、経済学部村松氏である。もう10年近く前のことになる。東京には日本労働協会(現日本労働研究機構)や法政大学の大原社会問題研究所に充実した資料室があるのだけれども、名古屋には何にもなくて困るという話をしたときだった。

数年前の話であるが、ある単産の幹部と1年間同じ研究会にいたとき「鶴舞の勤労会館の資料室はいいですね。東京で探し回ってとうとう見つからなかった歴史的資料がちゃんと保存されていましたよ」という話になった。名古屋の人間として(尾張弁も三河弁も話せないが)、鼻が高かった。

コピーを頼むと天文学的な料金を取られる。だから、とにかく貸し出し手続きをして外で作業することになるけれども、資料は多い。役所で用済みの資料でなければ、資料室に回ってこないの、最新のものを見るにはやや難がある。けれども、何年かたてば、きちんと保存される。資料室そのものは狭い。でも、書庫は勤労会館の地下に大きく広がり所蔵資料は非常に多い。資料室の人々も親切である。何を探したいのか自分で分かっているならば、きちんと相談に乗ってくれるはずである。

経営労務や労使関係の研究に当たっては、部屋に閉じ籠って書物を読んでいるだけではいけない。自分でデータを集めるのが第一番に必要なけれども、データを集めきれない事柄については、実態調査の報告書をいろいろ読むことが必要である。

労働省、通産省、日本生産性本部、高年齢

者雇用開発協会、雇用職業総合研究所(現日本労働研究機構)、東京都立労働研究所そのほか多くの研究・調査機関でいわゆる「白表紙」といわれる報告書が刊行されている。その報告のもとになっているのは、数百万円の予算で行われた実態調査プログラムである。社会科学が自然科学と比べると一桁も二桁も少ない予算でサポートされていることを嘆くのはとりあえず止そう。

労働資料室にいけば、この内のいくつかは所蔵されている。「白表紙」の報告書は記者クラブでの発表を通じて新聞に載る。私のタッチした報告書もかなりの数は新聞報道されている。こういう報告書は自分で発行者に請求すれば、入手することはできるが、新聞で見落としたものについて労働資料室は、大きな手助けとなる。学生諸君にとっても、また、私にとってもとてもありがたいのは、この勤労会館では「件名目録」が整備されていることだろう。

行けば何とかなるといったところではないけれども、この資料室は目的を持って行けば大きな助けを得ることができる。この資料室で何人かの諸君の先輩にあったこともあるが、これからも諸君に会いたいものだと思っている。

労働関係の国内逐次刊行物の紹介

南山大学図書館にも労働関係の資料がいろいろ揃っている。ここではそのうち国内で刊行されている資料で南山が収集・保存しているものうち、特に逐次刊行物に的を絞って紹介してみたい。まず労働一般について展望できる資料としては、

- 1『労働白書』（R/366/280）
- 2『日本労働年鑑』（R/366/4）
- 3『海外労働白書』（R/366/395）

があげられる。この3資料は共に年刊で、1年を通じての労働関係問題の概説・動向を把握するには最も基本的な資料であり、便利な資料ともいえる。なお2には文献目録も付されており使い易い。またこうした概況・動向を月単位で見えていくには、

- 1『労働時報』（Z/360/R59）
- 2『海外労働時報』（Z/360/Ka21）
- 3『労政時報』（Z/360/R72）

4『日本労働協会雑誌』（Z/360/N71）といった雑誌が有益であろう。1は労働省の広報誌であり、2には海外（特に東南アジア中心）のカレントな労働事情が紹介されている。3は人事・労務関係の情報誌といったところだ。4は労働問題について法律・経済・心理など多方面にわたる分野からの論文が多く掲載されている。次に労働問題のなかで特に労働法と賃金関係の資料を紹介してみたい。まず労働法関係の主な雑誌として

- 1『労働法律旬報』（Z/360/R59）
- 2『労働経済判例速報』（Z/320/R59）
- 3『中央労働時報』（Z/360/C66）
- 4『労働判例』（Z/360/R59）

を所蔵している。カレントな労働問題や労働判例等を読んでいくにはどれも落とせない雑誌といえよう。

次に賃金については

- 1『賃金実務』（Z/360/C46）
- 2『賃金と社会保障』（Z/360/C46）の2誌を

ここでは紹介したい。1は具体的な賃金の実例を取り扱っている雑誌であり、2は賃金のみでなく、労災・職業病といった社会保障（今回は社会保障の資料をあまり紹介できないが……）の視点からの記述もある。

以上が南山大学図書館でいう「雑誌」の労働関係のうちの主な資料である。

次にこうした労働諸問題に関する〈原資料〉ともいえる労働関係の統計資料を紹介してみたい。

まず労働一般の統計資料としては次のものがあげられる。

- 1『労働統計年報』（SS(100)/366/1）
- 2『労働統計調査月報』（SS(100)/366/6）
- 3『労働力調査年報』（SS(100)/366/2）

1はわが国の労働統計のすべてを収録している最も基礎的な労働統計資料である。2は労働省刊行の統計雑誌で毎月の労働関係の数値を把握するにはもってこいの資料だ。3は総務庁が編集している政府の公式労働統計資料で雇用・失業の動向をみていくには欠かせない資料である。

最後に賃金関係の統計資料を紹介しよう。

- 1『賃金センサス』（SS(100)/366/4）
- 2『民間給与の実態』（SS(100)/366/64）
- 3『資料賃上げの実態』（SS(100)/366/52）

1は年一回行われている「賃金構造基本統計調査」をまとめたもので最も基本的な賃金資料だ。2・3は共に国が編集している賃上げに関する調査結果を集計したものである。

以上がウチの図書館にはいっている労働関係の資料のごく一部の紹介である。他にもまだ紹介すべき資料がたくさんあるので、一度GEMMAで調べて載けたら、と思う。また「こんな資料がない！あんな資料が欲しい！」と言った利用者の声も是非聞かせて戴きたい。

（参考係・近藤幹夫）

《文庫訪問》

愛知県勤労会館労働図書資料室 愛知県勤労会館国連寄託図書館

毎度お馴染み文庫訪問、今回の“すぐれもの”ターゲットは労働図書資料室と国連寄託図書館。本学の利用者も多いというだけに興味津々である。

小雨ふりしきる6月12日、私たちは鶴舞にある愛知県勤労会館3階の労働図書資料室を訪れ、田中輝室長さんはじめ皆さんにお話を伺った。

労働図書資料室は昭和45年の勤労会館の開館とともに設置され、ほぼ同時に日本で9番目の国連寄託図書館も併設された。その主な事業内容は、1) 資料の収集・整理・保存、2) レファレンス業務、3) 編集・出版事業、4) 広報活動、である。

資料の収集は、愛知県労働者福祉施設条例の「労働に関する図書、記録その他資料を利用させること」という規定に沿って行われている。収集分野は、以下の通り。

1. 労働問題一般
2. 雇用
3. 経営労務
4. 労働条件
5. 労働者生活
6. 労使関係・労働運動
7. 労働法制
8. 社会保障
9. 労働文化

平成2年3月末現在の蔵書数は、和書約40,000冊、洋書約1,000冊、和雑誌340種、洋雑誌2種、小冊子約12,000点である。特に小冊子類はほとんどが非売資料で、寄贈や交換等によって積極的に収集に努めており、その充実ぶりには感心した。なぜなら、小冊子類をきちんと収集整理して利用に供することは多大な労力を要する作業であり、またこのようなコレクションは他の機関ではなかなか手に入らない貴重な情報源だからである。

レファレンス業務で特徴的なのが「労働資料記事索引目録」の維持・作成である。これは、新着資料（雑誌200種、小冊子約1,000点）に収録されている主要記事をカード目録化したもので、レファレンス業務に使われ、後述する『労働資料情報』誌掲載の「労働資料記事索引」のもとネタともなる強力な助っ人だ（資料室の人は、「コレが無いと仕事になりません」と語っていた）。

労働資料記事索引

—ア—

(安全管理)

特集 プレス災害対策—そのポイントを探る—

労働安全衛生広報 504 ('90.4.1) p12~21

特集 安全衛生の助成制度

労働安全衛生広報 503 ('90.3.15) p4~15

(衛生管理)

ウォーキングを中心としたヘルスアップ運動

住友銀行

レファレンス・カウンターに寄せられる質問は1日平均30件ほど。個人の利用者は少なく、会社の労務・総務担当者、労働組合等の役員が業務上必要な情報を求めてくる場合が多い。相談内容は賃金や労働時間等の労働条件・人事管理に関するものが全体の62.5%を占めている。電話による文献複写サービスも受け付けている。

次は、併設されている国連寄託図書館の紹介。国連寄託図書館は、国連本部の指定を受けて、国連事務局出版物、国連公式記録、謄写刷資料などが寄託されており、総冊数は平成2年3月末現在で、図書約5,000冊、雑誌81種、マイクロフィッシュ8種約15,000枚、謄写刷資料約78,000点にのぼっている。また、利用促進をはかるために、『国連資料情報』(Z/300/Ko49)を年5回発行して、所蔵資料の紹介をおこなっている。利用者層としては大学の研究者が多く、本学の学生も利用させてもらっている。

そこで重要なお知らせを。平成3年1月に
国連資料は新文化会館図書館（名古屋市中区
三の丸一丁目に現在建設中で平成3年春開館
予定）に移管することになっており、残念な
がら年内までしか利用できない。まだ新文化
会館の正式な開館時期は未定のため、急ぎの
人は必ず年内に利用を済ませよう。

訪問を終えて

さすがに労働関係資料は充実している。労
働関係の雑誌タイトル数は本学の図書館より
も多いし、一般的には入手困難なパンフレッ
ト類も数多くある。更に、労働図書資料室が
作成する『労働資料記事索引』の原データで
レファレンスサービスが行われ、利用制限も
少なく非常にオープン、文献複写も資料の館
外貸出も可、職員の中には南山の卒業生もい
るよ！という訳で、これを利用しない手はない
というのが取材をしたあとの率直な感想で
ある。今回も見事「う～ん！」と唸らされて
しまった私達であった。

開館時間

平日 9:30～18:00

土曜 9:30～15:00

休館日

祝日、日曜日、毎月月末（図書整理日）

年末年始（12月29日～1月4日）

整理期間（春季10日以内）

閲覧

自由にできます。

館外貸出

現住所の確認ができるもの（学生証・
免許証・身分証明書等）が必要です。

貸出冊数：2冊（団体は3冊）2週間

複写サービス

受付時間：9:30～18:00

（土曜は15:00まで）

愛知県勤労会館労働図書資料室・

愛知県勤労会館国連寄託図書館

名古屋市昭和区鶴舞1-2-32

Tel. 052-733-1141



勤労会館のなかは

こんなふうになっている！

[事務棟]

講堂 (ホール)	書庫	3F	機械室
		2F	倉庫
		1F	会議室、愛知県労働協会、講習室
		0F	食堂、情報管理室、職業サービスセンターetc
エレベーター	機械室	B1	駐車場
		B2	書庫、駐車場

p. s. 皆さんの中で「こんな図書
館、あんな情報センターを紹介してほしい」
というアナタ、図書館までご一報ください。
腕によりをかけて取材させていただきます。（何
か謝礼はないのかって？ ウ～ん...）

（編集委員・紅露剛，土屋玲）

『前回の結果を使う』はもう古いの巻

GEMMAの得意技で「馬鹿のひとつ覚え」を知ってますか？ これを使えば、「前回の結果」だけではなく、過去の検索結果をも利用して検索することができます。それでは実際にやってみましょう。

「==>」の位置に『 . . DISPLAY ALL』と入力し **実行** して下さい。(図1)

ここで大切なことは、『 . . 』は必ず付けねばならない、ということです。これを忘れると、いきなり「DISPLAY ALL」というキーワードで検索してしまいますから注意が必要です。

おや、びっくり！ 過去の検索式が全部出てきました。(図2)

では、よく観察してみましょう。「SEARCH」と書かれた文字の下に「0001,0002…」と番号が出ています。この番号を指定することによって、過去にあなたが作った検索集合を使うことができるのです。番号を確認したらそのまま **実行** して下さい。画面は図3のように変わります。

「0002」をもう一度使って検索したいのなら、「==>」の所に例えば、『 2 AND キーワード』のように入力し **実行** します。(実行結果は図4)

```

AQUARIUS - SEARCH MODE
00004 FUZOKU
FUZOKU
RESULT (EXTENDED)          72 OCCURRENCES    67 DOCUMENTS
                             72 OCCURRENCES    67 DOCUMENTS

==> ..DISPLAY ALL
PF2= リスト PF3= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了 90/09/13 <DB01>

```

(図1)

```

SEARCH - QUERY (EXTENDED LIST)
00001 HANCA
NUMBER OF OCCURRENCES = 0000023
NUMBER OF DOCUMENTS = 0000023
SEARCH - QUERY (EXTENDED LIST)
00002 河出書房新社 .PUBLISHER.
NUMBER OF OCCURRENCES = 0000355
NUMBER OF DOCUMENTS = 0000355
SEARCH - QUERY (EXTENDED LIST)
00003 KIPPON AND BUKA
NUMBER OF OCCURRENCES = 0000241
NUMBER OF DOCUMENTS = 0000138
SEARCH - QUERY (EXTENDED LIST)
00004 FUZOKU
NUMBER OF OCCURRENCES = 0000072
NUMBER OF DOCUMENTS = 0000067
**** END OF DISPLAY, RETURN TO CONTINUE ****

==>
PF2= リスト PF3= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了 90/09/13 <DB01>

```

(図2)

```

AQUARIUS - SEARCH MODE 質問を始めて下さい。
00005

==> 2 AND HASHIMOTO
PF2= リスト PF3= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了 90/09/13 <DB01>

```

(図3)

```

AQUARIUS - SEARCH MODE
00005 2 AND HASHIMOTO
2 河出書房新社 .PUBLISHER. 355 OCCURRENCES 355 DOCUMENTS
HASHIMOTO 95 OCCURRENCES 78 DOCUMENTS
RESULT (EXTENDED) 4 OCCURRENCES 2 DOCUMENTS

1039877 花咲く乙女たちのキンビツゴボウ 後編 河本治香 河出書房新社 19
1039891 花咲く乙女たちのキンビツゴボウ 前編 河本治香 河出書房新社 19

==>
PF2= リスト PF3= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了

```

(図4)

GEMMA データベース状況

1990.10.1 現在

(単位: 書誌レコード数)

種 別	図 書		雑 誌	
内 訳	洋 図 書	和 図 書	洋 雑 誌	和 雑 誌
	49,648	52,504	4,623	6,108
合 計	102,152		10,731	

(システム係・三谷靖司)

国文学研究資料館データベース

国文学研究資料館は、国立の大学共同利用機関として昭和47年に創設され、昭和52年に開館した国文学資料の全国センターともいえる機関です。この機関の所蔵資料を大別すると、マイクロ資料、図書、逐次刊行物の3種です。今回は、このうちのマイクロ資料と図書を検索できるデータベースを紹介いたします。

1. マイクロ資料目録データベース

マイクロ資料とは国文学研究資料館が全国各地の大学や文庫、社寺等に散在する国文学関係の古典籍（江戸時代以前の写本・版本）をマイクロフィルムに撮影し収集したものです。これらの資料は『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』（請求番号R/910/542）で調べることができますが、この目録の書誌データを累積し、データベース化したものがマイクロ資料目録データベースです。

2. 和古書目録データベース

国文学研究資料館は1. 原本（写本・版本）を約15,000冊余りと、2. 活字本・影印本を約62,000冊余り所蔵していますが、そのうちの原本を収録した『国文学研究資料館蔵和古書目録』（R/910/542-2）をデータベース化したものです。

これらのデータベースはいずれも文献資料の目録をデータベース化したものですから、検索した結果得られるデータは冊子体の上記『マイクロ資料目録』『和古書目録』を引いて得られるものとおなじです。また、逐次刊

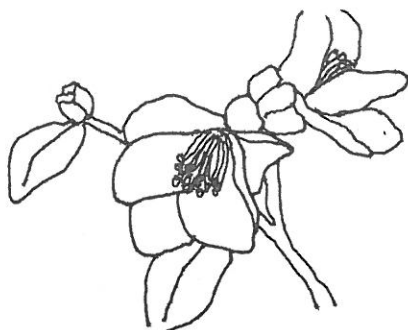
行物については『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録』（R/910/542-1）をご利用下さい。なお、検索にかかる料金のうちシステム料（接続時間によります）＋データベース使用料（40円）を負担していただきます。

……耳寄りな話（こんな便利なものもあります）…

研究展望、文献、その他国語界に関する情報が掲載されている『国語年鑑』（請求番号R/810/475）はよくご存じのことと思います。実はこの『国語年鑑』（昭和29年版～昭和60年版、論文発表年は昭和28年～昭和59年）の「雑誌論文一覧」を合併・編集した『日本語研究文献目録：雑誌編〔フロッピー版〕』が購入されました。

論文のタイトルに含まれていそうな言葉で検索したり、著者名からの検索もできるので、ぜひ利用してみてください。『国語年鑑』を縦覧する手間も省けるうえ、またこのフロッピーは貸出もいたします。NEC PC-9800シリーズやEPSON PC-286シリーズのパソコンなどで使用できます。もちろん図書館の端末機でも利用していただけます。

（参考係・山辺美津香）



図書館的達人

『ぶんるいばんごー』ってなあに？

南山ギャルその1：ねえ、大体さあ、分類って何よ。

南山ギャルその2：さあ、とにかく……分類なんじゃない。分けてあるんでしょ。

熱血図書館員：そーです！ そのとーおり！ 分けてあるんです！

いろーんな本がありますよね、だから、いろーんなテーマがそれらの本にあって、たとえば、コンピュータ関係の本はそういうのばかりまとめて置いた方が使い易いでしょ。そうやって同じテーマの本を分けて一緒にしておくことを「分類」っていうんです。

南山ギャルその1：じゃ、「分類番号」って？

熱血図書館員：これ見て下さい。「NDC」というものなんですけど……[と言って、ぶ厚いえびちゃ色のダサイ本を持ってくる]これは今言ったテーマを番号で示している表なんです。正式に言うとな「日本十進分類法」、**Nippon Decimal Classification**、略して、**N.D.C.!**

(R/014/106-2)

南山ギャルその1：！？……………

熱血図書館員：えーとね、文学とか、経済学とか、法学とか、要するにありとあらゆる学問の分野が番号化されているの。うーん、一気に見ると気持ち悪くなるから、まず大きな項目と自分の興味のあるテーマの番号の所を覚えてね。

南山ギャルその2：しんど〜。

熱血図書館員：でも、覚えてしまえば何かと便利、お役に立ちます。だって、本（書架）はこの分類番号の順に左から右へと並べてあるから自分のテーマの番号を知っていれば、開架の棚ならすぐそこへ行ってどんな本があるのか見ることができるよね。もちろん、知らなくてもGEMMAなんかで欲しい本は探せるけど、この分類番号を知っているともっと多くの本を探せるのだ！[GEMMAは分類による検索ができるのだ。後で彼女たちにGEMMAの利用案内を渡さなくては！]あっ、そうそう、でもね、実はこのN. D. C.（7版）は内容が固定していますが、学問は日進月歩、日夜変化し続けているので、新しい分野なんかは番号がなく、しょうがないからそれらしい番号で代用しているという事情があるんです。ちょっと難しいことを言うようですがバイオテクノロジー（467）や、環境科学（468）や、人工知能（141,335,549）や、認知科学（141）なんかはどの番号を付けたらいいのか困るんだけど、苦しみながらも、できるだけみなさんが使い易い所に分類していますのでわからなかったら、どんどん聞いて下さいね！

南山ギャル1・2：はあ〜い。

熱血図書館員：じゃ、またね。

（整理係・関谷治代子）

蔵書移動終了す!!

7月半ばより進めてきた電動集密書架の設置に伴う蔵書移動が無事終了しました。政治・法律分野を中心に大幅な移動を行ないましたので、詳しくは『図書館報号外』を見てください。また地下1階開架図書の芸術・スポーツ関連の図書を閲覧室内の低書架に移動しました。



黙っているとストレスが溜まる あなたへ

閲覧室で騒いでいて注意を受けたこと、ありますか？ 静かにしなきゃ、と思いながら思わず話をしてしまうあなた。是非一度『グループ閲覧室』を使ってみてください。閲覧カウンターに申し込むだけの手軽さ、利用日の前月1日からの予約もできます。
ただし、閲覧室同様飲食・喫煙はできません。

晩秋
企画

ブックカバー展 (10月22日～11月2日)

本のカバーが気に入って、つい手に取ってしまったり、思わず買ってしまったりした経験、最近ありませんか？
そこで、晩秋企画としてこれまで捨てていたブックカバーを拾い上げ、展示することにしました。対象は過去1年間に購入した和書を予定しています。

図書館地下1階書庫に

新マイクロ室とコピー・ルームが できました。

新マイクロ室は従来のマイクロ室の北隣りにあり、1階エレベーター前の螺旋階段を降りたすぐ左が入口です。前より明るく広い、使い易いマイクロ室になりました。これに伴って、従来書庫内にあった教員用コピー台と大学院生及び書庫内入庫の3、4年次生用コイン・キット付コピーを旧マイクロ室に移動してコピー・ルームとして独立させました。

《ライブラリーカレンダー》

南山大学図書館開館予定表

平成2年10月～12月

□: 開館日 (開館時間は9:00、表中の数字は閉館時間)

□: 休館日

10月		11月		12月	
1 (月)	18:30	1 (木)	16:30 大学祭	1 (土)	15:30 ★
2 (火)		2 (金)	16:30 大学祭	2 (日)	休館
3 (水)	★ 文	3 (土)	文化の日	3 (月)	18:30
4 (木)		4 (日)	休館	4 (火)	
5 (金)	18:30	5 (月)	18:30	5 (水)	★ 文
6 (土)	15:30 ★	6 (火)		6 (木)	
7 (日)	休館	7 (水)	★ 文	7 (金)	18:30
8 (月)	18:30	8 (木)		8 (土)	15:30 ★
9 (火)	18:30	9 (金)	18:30	9 (日)	休館
10 (水)	体育の日	10 (土)	15:30 ★	10 (月)	18:30
11 (木)	18:30	11 (日)	休館	11 (火)	
12 (金)	18:30	12 (月)	18:30	12 (水)	★ G
13 (土)	15:30 ★	13 (火)		13 (木)	
14 (日)	休館	14 (水)	★	14 (金)	18:30
15 (月)	18:30	15 (木)		15 (土)	15:30 ★
16 (火)		16 (金)	18:30	16 (日)	休館
17 (水)	★ 文	17 (土)	15:30 ★	17 (月)	18:30
18 (木)		18 (日)	休館	18 (火)	
19 (金)	18:30	19 (月)	18:30	19 (水)	★ 文
20 (土)	15:30 ★	20 (火)		20 (木)	
21 (日)	休館	21 (水)	★ 文	21 (金)	18:30
22 (月)	18:30	22 (木)	18:30	22 (土)	15:30 ★
23 (火)		23 (金)	勤労感謝の日	23 (日)	天皇誕生日
24 (水)	★ G	24 (土)	15:30 ★	24 (月)	振替休日
25 (木)		25 (日)	休館	25 (火)	休館
26 (金)	18:30	26 (月)	18:30	26 (水)	16:30
27 (土)	15:30 ★	27 (火)		27 (木)	16:30 ★ G
28 (日)	休館	28 (水)	★ G	28 (金)	休館
29 (月)	18:30	29 (木)		29 (土)	
30 (火)		30 (金)	18:30	30 (日)	
31 (水)	18:30 ★			31 (月)	休館

(注) ★印: 4年次生書庫内資料閲覧日 (水=13:00～16:30、土=9:00～11:30)

10月からは3年次生も入庫できます。

(講習会情報) 文: 文献検索、G: GEMMA(初級)

なお GEMMA(上級)、日経テレコン(経済学科生、経営学科生用)は実施日未定のため逐次掲示します。

《編集後記》

読書の秋、運動の秋、食欲の秋、貴方は秋をどうやって過ごしますか？

人それぞれの秋、図書館は読書の秋をお手伝いします。

(真野・山辺・三谷・土屋)

南山大学図書館報 No. 7

1990.10.1発行

南山大学図書館

〒466 名古屋市昭和区山里町18

TEL.052(832)3707